

和歌山県透析医会だより

北 裕次

1 支部の概況

和歌山県における透析医療の草分けは、和歌山県立医科大学泌尿器科教室の故金沢教授が1963年に慈恵式人工腎による透析を行ったのが最初で、1968年にはトラベノール社製の一人用タンク式人工腎により慢性腎不全の治療が始まったと言われている。そして、日本全国が万国博覧会に沸いた1970年に、阿部教授を中心とした総合腎センター構想のもとに、和歌山県立医科大学に同時4床の透析室が開設された。同年には人工透析患者連絡協議会（現和腎会）も発足したようである。阿部教授退官後には、日本透析医学会現理事長の秋澤忠男教授に腎臓内科・血液浄化センターとして引き継がれ、2006年4月からは重松隆教授が就任している。

和歌山透析医会の活動は、1980年に都道府県透析医会の会長であった平澤由平先生よりのお誘いがあり、同年5月に和歌山透析医会が発足したと聞いている。残念ながら、その活動は現在まで、それ以前からある

和歌山透析研究会の世話人的な意味合いが強く、活発とは言えない。初代会長は故谷口晃先生、二代目に故田上浩先生、前会長柏井利彦先生へと続き今回、柏井先生が辞意を表明したため、心ならずも私に回ってきた。

2010年4月現在の役員は表1のとおりになっている。

2 この1年の出来事

① 4月4日

第75回和歌山透析研究会が開催された。今回は初めて一般演題なしで行われた。企業セミナー（テーマ「我が社の透析装置情報」）として透析装置主要4社から15分ずつの口演と、ワークショップ（テーマ「フットケア」）として看護師2名、医師2名の計4題の口演と討論があった。最後に特別講演として、岡村吉隆先生（和歌山県立医科大学第一外科）の「CKD患者の心臓血管外科手術——透析施設と心臓血管外科施設との連携をいかにするか——」があった。

表1 和歌山透析医会役員名

| | | |
|-----|-------|-----------------------|
| 会 長 | 北 裕次 | きたクリニック |
| 副会長 | 柏井利彦 | 柏井内科クリニック |
| 理 事 | 重松 隆 | 和歌山県立医科大学腎臓内科血液浄化センター |
| | 根木茂雄 | 和歌山県立医科大学腎臓内科血液浄化センター |
| | 大伴裕美子 | 日本赤十字社和歌山医療センター |
| | 田村公之 | 田村病院 |
| | 風呂谷匡彦 | 名手病院 |
| | 打田和宏 | 西和歌山病院 |
| | 児玉敏宏 | 児玉病院 |
| 顧 問 | 阿部富彌 | 和歌山県立医科大学名誉教授 |

② 5月23日

全腎協全国大会が和歌山で開催された。昨年は新型コロナウイルスのため中止となり、2年ぶりとなったこともあり、1,100名以上の出席があり、盛大に行われた。前日の交流会では、山崎親雄会長も出席し、来賓挨拶を行った。

当日の本会では、重松隆先生（和歌山県立医科大学教授）の記念講演「腎臓と骨は兄弟です」があった。他に、三木健二氏（元読売新聞記者）・櫻堂渉氏（医療経営戦略研究所所長）・宮本高宏氏（全腎協会長）3氏によるシンポジウム「透析者の未来を創る」があり、秋澤忠男先生（昭和大学医学部教授）・重松隆先生・吉村了勇先生（京都府立医科大学教授）による鼎談「腎不全医療の最前線を探る」があった。出席者の患者から、わかりやすく非常に勉強になったと好評だった。

③ 5月27日

腎臓移植推進委員会（年1回）が開催され、前年度の活動状況および移植実績の説明があり、献腎移植の問題点等が話し合われた。平成21年度は、35歳男性、56歳男性の2献体があり、それぞれ、日赤和歌山医療センター、和歌山県立医科大学付属病院で計4腎が摘出され、日赤和歌山医療センター、神戸大学医学部付属病院、兵庫県立西宮病院、大阪大学医学部付属病院の4病院で移植が行われた（表2）。

過去の腎臓提供の状況は表3のとおりである。

④ 9月18日

一般社団法人和歌山臨床工学技士会設立記念式典があった。これは、平成22年1月24日に、和歌山臨床工学技士会が一般社団法人化したことによる。

式典の記念講演では、重松隆教授（和歌山県立医科大学腎臓内科・血液浄化センター）による「血液浄化における臨床工学技士の役割」があり、特別講演として、岡村吉隆教授（和歌山県立医科大学付属病院院長）による「これからの医療を支える人材の育成」があった。

⑤ 10月17日

本年2度目の第76回和歌山透析研究会が開催された。一般演題は15題あり、特別講演として、笠原正登先生（京都大学大学院医学研究科内分泌・代謝内科）による「透析患者に物申す」があった。

⑥ 12月4日

第29回日本アフェレシス学会関西地方会が、大会長重松隆教授のもと、和歌山の有名な温泉地である南紀白浜で開催された。一般演題20題、シンポジウム4題、企業セミナー5題、他にランチオンセミナー「アフェレシスにおける分離技術の基礎」があった。

3 災害対策

和歌山県では近い将来、発生が予想されている東南海・南海地震等大規模地震に備えるため、さまざまな地域防災計画がなされているが、災害医療としては、わかやま医療情報ネット（和歌山県広域災害・救急医療情報システム）がある。その中に透析患者連絡シス

表2 平成21年度和歌山県における腎移植

1. H21.7.6 35歳男性
日赤和歌山医療センターで2腎摘出
日赤和歌山医療センター、神戸大学医学部付属病院で移植
2. H22.3.16 56歳男性
和歌山県立医科大学付属病院で2腎摘出
兵庫県立西宮病院、大阪大学医学部付属病院で移植

表3 腎臓の年度別提供状況

| 移植先の種別 | S63~H11.1 | | 12 | | 13 | | 14 | | 15 | | 16 | | 17 | | 18 | | 19 | | 20 | | 21 | | 計 | |
|--------|-----------|------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|------|
| | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 | 提供 | 移植 |
| 県内摘出分 | 14 | 28 | 1 | 2 | 3 | 6 | 1 | 2 | 4 | 8 | 3 | 6 | 1 | 2 | 6 | 12 | 2 | 4 | 3 | 6 | 2 | 4 | 40 | 80 |
| 県内→県内 | | (17) | | | | (1) | | (1) | | (2) | | (2) | | (1) | | (6) | | (1) | | (3) | | (1) | | (35) |
| 県内→県外 | | (11) | | (2) | | (5) | | (1) | | (6) | | (4) | | (1) | | (6) | | (3) | | (3) | | (3) | | (45) |
| 県外摘出分 | 6 | 6 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | 7 |

提供：提供者数、移植：移植腎臓数、（ ）内は内訳。

災害時における人工透析患者連絡システム 概略図

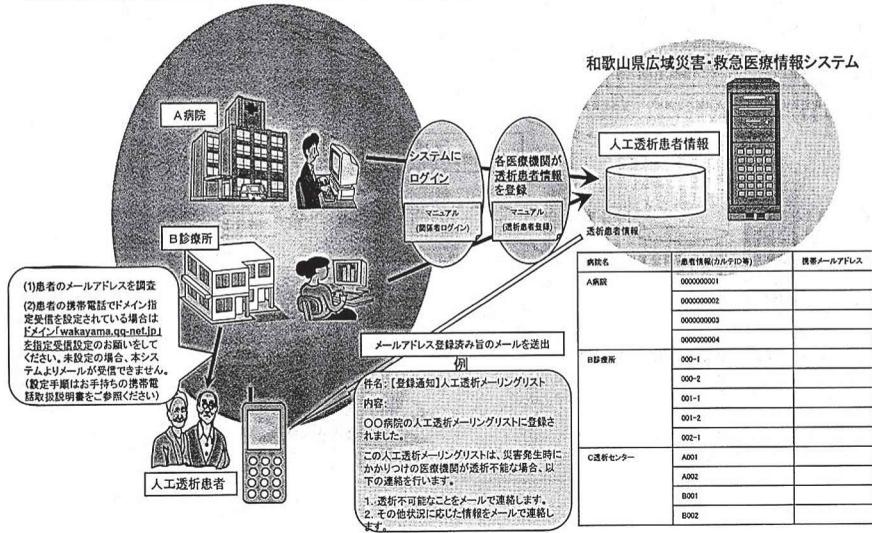


図1 和歌山県広域災害・救急医療情報システム (平常時)

災害時における人工透析患者連絡システム 概略図

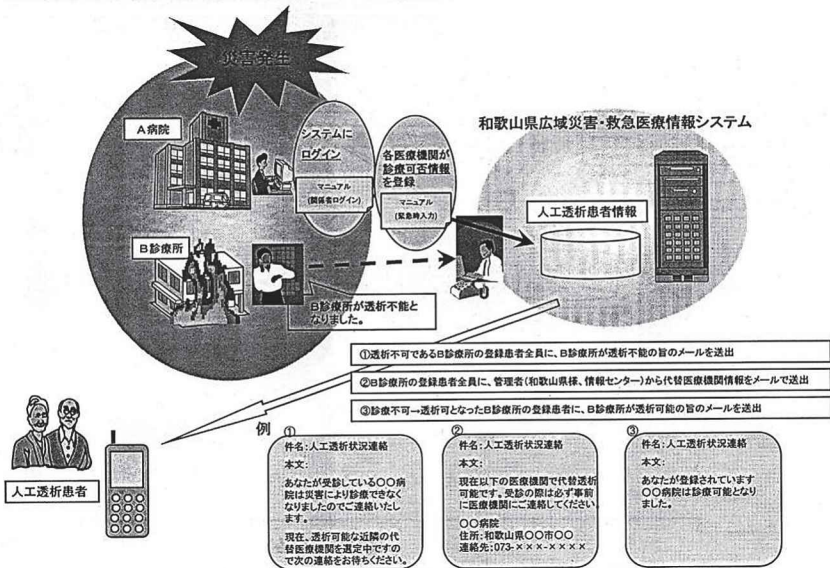


図2 和歌山県広域災害・救急医療情報システム (災害時対応)

テムがある。(図1,2)。災害にさいしては、透析患者にとって、自分が受診している透析施設が透析可能か、不能の場合どこに行けばよいかの情報は非常に重要となる。そのため、前もって、患者、家族の携帯メールアドレスを登録し、災害時にその情報をお知らせするものである。そして、非定期的に数か月に一度、システムの訓練が実施されている。直近では2010年11月22日に、和歌山県南部を震源とする震度6弱の地震を想定し、訓練が実施された(図3)。

4 おわりに

和歌山県の問題点として、以前にも紹介されていたが、現在も透析医会への参加が少なく、透析医療機関相互の連携も良好とはいえない。また、今後益々透析患者の高齢化が進み、送迎問題や入院透析の増加問題、感染対策や事故防止策等、解決しなければならない問題が後を絶たない。それらに対応すべく、活動の裾野を広めるよう努力していきたいと思う。

和歌山県広域災害・救急医療情報システム（一斉通報サービス）

タイトル：御坊保健医療圏における災害医療救護訓練の実施について

送信者：和歌山県庁福祉保健部医務課

送信時刻：2010年11月17日15時44分50秒

通報番号：000800

各医療機関

広域災害救急医療情報システム担当者 様

こちらは県庁医務課です。

平素は、広域災害・救急医療情報システムの適正な運用について、ご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、平成22年11月20日（土）に御坊保健医療圏で実施される災害医療救護訓練に併せ、県独自の情報入力訓練を実施しますので、ご多用の中大変恐縮ですが、訓練当日に対応可能な医療機関におかれましては、下記により入力をお願いします。

記

（訓練日時）

平成22年11月20日（土）13時10分から16時30分

<想定する災害の内容>

地震発生日時：H22.11.20（土）13時00分

震源地・規模：田辺市内陸直下型地震 震度6弱

（訓練内容）

11/20（土）13時10分頃

県庁医務課において本システムを訓練運用に切替

→ 各医療機関において

「緊急時入力」及び「詳細入力」を行う

・入力内容について

[緊急時入力]

「診療可否」=必ず「可」をチェック

「受入可能患者数」=適宜入力

「人工透析患者診療可否」=必ず「可」をチェック

※透析実施医療機関のみ

診療可否で「否」をチェックすると、患者さんに透析安心メールが送信されますので、今回の訓練では、必ず「可」をチェックしてください。

[詳細入力]

各医療機関で適宜入力

→ 入力が完了した時点で訓練終了とします

図3 災害訓練連絡表